

第27号  
平成23年2月



## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試して下さい。

山田整骨院  
熊本市出水4 - 25 - 1  
096-364-7611  
<http://yamadasu.com/>  
E-mail:yamadasu@opal.ocn.ne.jp

### 西 医 学 の 研 究 報 告

西医学の書籍は多数ありますが、西勝造先生が噛んでふくめるように解説した論文と他一編をご紹介しますと思います。

#### 西会会報 昭和21年5月発行

腹の健康(十八).....西勝造

人体の自家中毒を予防しようとするには、平常の生活習慣が、先ず調節されなければならない。ただ斯くしてこそ、肝臓に起った炎症の様な簡単なものでも、又は慢性的なものでも、防ぎ得るのである。さもないと、この肝臓の炎症から色々な疾病が起こるのである。

この器官が膨張を来たし、その結果、肝臓一帯が弱くなるのであるが、それとは別に肝臓病の他の徴候がある。例えば、眼の白みが、黄色を帯びるに至れば、それは肝臓を侵された証左である。胆汁で、人体組織が充満されると、それは黄疸である。黄疸になると、皮膚の色は、黄緑色になる。一方、肝臓病の必然的結果として、患者は苛立たい気分になるのである。そのことは余りにもよく知られているから、ここで、述べるには及ばないであろう。

一般によくいはれる憂うつ性(メランコリ)と云う言葉は、ギリシャ語から来たもので、「黒い」「胆汁」と云う二字を意味する。昔の人にとっては、胆汁質の人は、憂うつな人間に見えたらしい。気難しい人を、よく見かけるものであるが、それは体質的には、その人の胆汁が、異常であることから来たのである。しかしながら、もっと普通の平凡な原因は、過食である。過食と云うと何となく人格を無視したように聞へるが、実は大多数の人々が過食の結果、みんな疾病の遠因を造っているのである。「あなたの今の消化器官では食物が処理出来ないから少し減すことです。」「あなたは過食です、お減しなさい。」どちらが響きが良いか、前者の方を用ひます。肝臓の傷害は疲労したときに普通食を摂ったり、睡眠不足のときに平常食を食べたり、空腹のときに多くを食したりすると直ぐに肝臓に影響するのである。

肝臓は腺として作用する以外に、又、一種の倉庫の役目を果している。でん粉や糖分は、将来使用するために、ここに保有されるのである。充血の結果として、胆汁質にあっては怒り易くなるのである。凡ての肝臓疾患は腸内内容物の残滓物が宿便として堆積するその毒素が、過食か、そのいづれかから発生するものである。特に配給では足りない足りないと言う観念から遂には、たまたま手に入った場合など多く食べると、いけないのである。それが、たまたま疲労しているときとか、寝不足のときに合致したときに起るのである。これを治すには、腸の運動を、規則正しく、しなければならぬ。又、食事も留意されねばならぬ。斯くしてのみ、その治療は、可能である。又、重態の場合、若しくは、それを速やかに治すには、断食が必要欠く可からざるものである。……省略…… 断食よりも楽にやれるのは、生野菜を種類の異なったものを数多く、而もそれを磨り潰したものを一日の量として三百匁（1kg125）前後もあれば充分である。……省略……喉頭炎や、咽喉カタルや、気管支炎等は、大抵、似かよった疾病である。……省略……（これらの）真の病原は、カタルである。カタルは主として過食や、消化不良や、腸の不活動に依って、血液が有毒になるから発生するものである。以下省略……

体験側聞記…谷 生

K病院のN先生が昨年6、7月頃大豆の配給が多かった頃、西先生を訪問せられて、近頃豆の過食の為か腹膜炎の入院患者が多く、しかもこれに適薬が無いので 注射のようなもので間に合せて居りますが、死亡者が多く良心に咎められて苦しくてなりません、何とか方法は無いものでしょうかと問われて居た。西先生はこれに答へられて、腹に味噌を貼ってみなさい、と言われるとN先生は一寸困ったような顔をして、病院ですから他の職員に知れると都合が悪いと思いますが、と低声で云われる。西先生は、夜十時過ぎでもよいから全員が寝た後でもすればよいでしょうと教えられた。……省略……一ヶ月位後に又N先生は西先生を訪ねられて、先生、味噌療法を夜分皆が寝た後で試みましたら見事成功しました。蛙のように張っていた腹も日々にゆるんで皆生命を取り止め、全快し退院者が続々と増加して居ります。以下省略。

## あ と が き

西勝造先生のご著作は専門家向けは難解ですが、一般向けには大変解り易く愛情をもって書かれています。肝臓病の他、胆石や喘息、結核は全て過食と腸内毒素及びそれによる身体の抵抗力の低下が原因であると書かれていたのですが、頁がなく残念ながら割愛しました。